

あなたは大丈夫？ 考えよう！インターネットと人権

作品紹介



インターネットはパソコン、スマートフォン、タブレット等を通じて手軽に利用でき、生活を豊かにするものである一方、使い方を誤ると、犯罪の被害者にも加害者にもなり得るリスクがあります。近年では、インターネット上の人権侵害は増加傾向にあり、深刻な社会問題となっています。このDVDは、インターネットを適切に使用するためにはどういったことに気を付けていけばいいか、インターネット上で起きる人権侵害の被害者にも加害者にもならないためにはどうすればいいかを、事例をもとに学んでいく教材として制作しました。(約18分)

企画：法務省人権擁護局・公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作：毎日映画社

知っていますか？障害者差別解消法

作品紹介



令和6年4月1日、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（平成25年法律第65号。以下「障害者差別解消法という。）」の改正法が施行され、民間事業者においても合理的配慮の提供が義務化されました。このDVDは、合理的配慮の提供や環境整備が求められる民間事業者の方を主な対象として、障害者差別解消法の目的や改正のポイント等について、障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針（令和5年3月14日閣議決定）の情報を交えながら解説し、障害を理由とする偏見・差別の解消に向けた取組の重要性について理解を深めることを目的とした映像教材です。(約30分)

企画：法務省人権擁護局・公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作：株式会社桜映画社

～ハンセン病と家族の物語～ 夢でしか帰れなかった故郷

作品紹介



ハンセン病は現代では発症することはほとんどなく、適切な治療を行えば治る病気であるにもかかわらず、かつて採られた国の強制隔離政策により、人々の心の中にハンセン病は恐ろしい病気だというイメージが植え付けられ、患者・元患者のみならずその家族に対する偏見や差別が作出・助長されました。ハンセン病患者を隔離するための法律が廃止された現代においても、元患者やその家族に対する偏見や差別はなくなっていない。このアニメーションは、小学生がハンセン病問題について学ぶ第一歩として、授業等でお使いいただく教材となっています。(約10分)

企画：法務省人権擁護局・公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

あなたは大丈夫？ 考えよう！児童虐待

作品紹介



近年、全国の児童相談所における児童虐待に関する相談対応件数は一貫して増加し、令和4年度には約22万件と過去最多となっています。こどもの生命に関わる重大な児童虐待事件も後を絶たず、児童虐待の防止は社会全体で取り組むべき喫緊の課題です。このような子どもを取り巻く深刻な状況を改善するため、児童虐待防止に関する正しい知識を身に付けるための動画を制作しました。本作品は、研修を行う際に映像教材としてお使いいただけます。(約32分)

企画：法務省人権擁護局・公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作：毎日映画社

アニメ 多様性の芽をはぐくむ ①人種・国籍

作品紹介



来日・滞日する外国人は年々増加しており、子どもたちにとっても身近に外国人と接する機会が増えてきています。見た目や言語、文化、習慣など様々な側面で「違う」存在である外国人との出会いは、子どもたちにとって新鮮かつ多様性を知る貴重な経験になる一方で、その違いに起因する誤解が生じてしまうことや無理解な態度が表出されてしまうことがあるかもしれません。この巻は、子どもたちが人種、国籍の違いから起こってしまうことがある無意識な思い込みや偏見、差別的な感情が自分自身の中にもあるかもしれない、そういった思考に気付くと共に、お互いを尊重できる感性を育むことをねらいとしています。(約12分)
製造：(株)サン・エデュケーショナル

アニメ 多様性の芽をはぐくむ ③障害

作品紹介



視覚障害、聴覚障害、知的障害、発達障害など様々な障害があります。障害を持つ人はそれぞれ日常生活における困難や固有の悩みを持つ場合があり、自分は障害を持っていないと自覚している人にとってはリアリティを持って理解されづらいことかもしれません。この巻では、障害を持つゆえの生きづらさや不便さはある一方で、それも個性であること、どちらか一方が助け一方が助けられる存在という認識を持たないよう、お互いに対等な関係性を構築していくのが当たり前、そう感じてもらえるような構成としました。(約16分)
製造：(株)サン・エデュケーショナル

アコロ青春 アコロ(アイヌ語で「私たちの」)

作品紹介



北海道沙流郡平取町。多くのアイヌの人々が暮らす町。アイヌにルーツを持ちながら、アイヌとは無縁に生きてきた青年はアイヌ文化の継承者として生きることを決意し、小さな旅へと出発する。主人公の姿を通して、自らのアイデンティティとは何か、さまざまな背景を持った人たちが違いを尊重し共生していくには何が必要なのか、を問いかける。(約28分)

企画：法務省人権擁護局・公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作：株式会社桜映画社

今企業に求められる「ビジネスと人権」への対応

作品紹介



今、企業は自社事業に関わる全ての従業員はもちろん、ステークホルダーと呼ばれる取引先の従業員や顧客、消費者、地域住民など、事業に関わる全ての人の人権を尊重することが求められています。本DVDでは、法務省人権擁護局と公益財団法人人権教育啓発推進センターが制作した「ビジネスと人権に関する調査研究」報告書に基づき、企業が「ビジネスと人権」に関する取組を進めるに当たり、参考となる情報をドラマやCG、ナビゲーターによる解説などで分かりやすく紹介しています。(ロングバージョン：約35分/ショートバージョン：約13分)

企画：法務省人権擁護局・公益財団法人人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

STOP！デートDV



作品紹介

好きな人と交際できるのは素敵なこと。しかし現在、10代のカップルのおよそ三組に一組の割合で、デートDVが起こっているとされています。この作品は、若者間で起こるデートDVをドラマ化。解説パートではデートDVが起こった時、どうすればよいか、被害者、加害者、被害者の友人、加害者の友人の立場に分け、デートDVについての理解を深める構成となっています。(約22分)

企画・製作 株式会社 ドラコ

レインボーストーリーズLGBTsと社会 ①職場～声に出せないハラスメント～



作品紹介

社会人が生活の中で多くの時間を過ごす職場。ここでは無自覚に発せられる言葉がLGBTs当事者を傷つけ、勤労意欲を低下させたり、メンタルヘルスを悪化させる原因にもなります。そうしたハラスメントをはじめ、トランスジェンダーが直面する就職活動の困難や、トイレ問題、情報管理の甘さから起こる無自覚なアウンティング、制服規程や同性パートナーを認める社会規程整備の必要性など、職場で起こりうる様々な事例を描き、その課題に取りくむためのヒントを示します。(約25分)

レインボーストーリーズLGBTsと社会 ②家族～自分の子どもが当事者だったら～



作品紹介

同じ家に住み生活を共にする家族。最も近い存在だからこそ、本当のことが言えず苦しんでいるLGBTsの人々は数多くいます。子どもからカミングアウトを受けた場合、親は前向きに受け入れられるのか、この明暗を分けるのは、わが子との関係性、性的指向や性自認の多様性への理解、そしてLGBTsが身近に存在するというリアリティではないでしょうか。本巻では、性の多様性に関して実感を持った理解がない親が、ゲイである青年期の息子を追いつめてしまう様子、親子が葛藤しながら関係を再構築する姿を描きます。(約21分)

レインボーストーリーズLGBTsと社会 ③公共機関～誰もが安心して相談できる窓口へ～



作品紹介

LGBTsの人々が福祉サービスを利用するとき、性的指向や性自認に関して対応する担当者の理解の欠如や知識の不足から、「相談しづらい」「意図せずカミングアウトを強要させられる」「発言に傷つく」といったトラブルが起こっています。この巻では、そうした具体例を描きながら、LGBTsの人々を含む誰もが安心して利用できる公的施設の対応を考えます。また、公的施設のみならず、LGBTsの人々への接客や応対を実践的に学ばたい企業や団体などでも活用できます。(約22分)

レインボーストーリーズLGBTsと社会 ④地域社会～ありのまままで過ごせるコミュニティ～

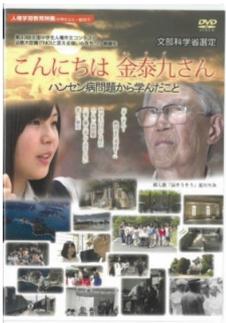
作品紹介



地域社会においては、男女の役割規範やその価値観が根強く残っていることも多く、「まだ結婚しないの?」といった一見したところ何気ない一言がLGBTsの人々を傷つけてしまうこともあります。本巻では、トランスジェンダーの登場人物を中心に誰もが地域社会の一員として、居心地よく過ごすことができるための様々な地域の取り組みの工夫を描きます。「自分の暮らす街にLGBTsの人はいない」と考えがちな地域の中において、無意識の差別をしていないかを考えさせるドラマです。(約22分)

こんにちは 金泰九(キムテグ)さん ハンセン病から学んだこと

作品紹介



人権学習教育映画(中学生以上一般向け)
第33回全国中学生人権作文コンテスト法務大臣賞「NO!と言える強い心をもつ」映画化
(約25分)

文部科学省選定
企画協力:法務省人権擁護局
制作・著作:株式会社映学社

はじめて学ぶLGBTs ①男らしい色?女らしい色?

作品紹介

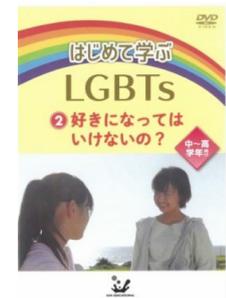


小学校低～中学年の児童には「性的指向と性自認」の知識を教えるというよりは、世の中が作り出す男らしさや女らしさといった規範がすり込まれる前に、「人はみなそれぞれ違うこと、その違いがいいこと」「こうあらねばならない、ということはない」といったメッセージを伝えることが大切です。アニメーションにより描かれた色鉛筆と人間との物語を通して、思い込みや偏見にとられることの無意味さに気づき、自分らしくあることの素晴らしさ、他者を尊重する姿勢を学びながら、多様性を肯定的に捉える感性の芽を育てる機会とします。物語の後に教員向け映像を収録し、本編の視聴後にどのような問題提起をするかといった授業展開のための具体的な指導案も示します。(約12分)

製造:(株)サン・エデュケーショナル

はじめて学ぶLGBTs ②好きになってはいけないの?

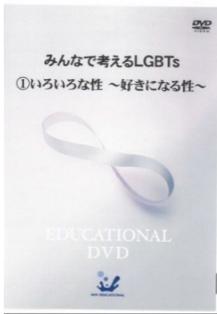
作品紹介



小学校中～高学年は他者への関心が高まり、恋愛感情の芽生えを経験する児童もいます。本巻は、同性を好きになった児童の物語を通して、恋愛感情の在り方は決して画一的なものではなく多様であり、異性を好きになる人も同性を好きになる人もおり、いずれかに価値があるのではなくどちらも肯定的に捉えることができる構成にしました。また、小学校中～高学年には自分の性的指向や性自認に気付く児童も少なからず存在しており、そうした当事者児童の自己肯定感が阻害されることなく勇気づけられ、自尊感情を育めるように配慮しました。物語の後に教員向け映像を収録し、本編の視聴後にどのような問題提起をするかといった授業展開のための具体的な指導案も示します。(約22分)

製造:(株)サン・エデュケーショナル

みんなで考えるLGBTs ①いろいろな性～好きになる性～



作品紹介

異性を好きになるか、同性・両性を好きになるか、あるいは誰にも恋愛感情を抱かないといった性的指向は、嗜好や志向とは異なる「指向」であり、本人が選択できるものではないと考えられています。本巻は、同性愛者（ゲイ、レズビアン）である生徒たちのドラマを見ながら、好きになる性の多様性について考える映像教材です。
(約23分)

製造：(株)サン・エデュケーショナル

みんなで考えるLGBTs ②いろいろな性～心の性・表現する性～

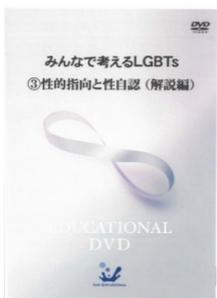


作品紹介

体の性と心の性が異なるトランスジェンダー、男でも女でもないと自認するXジェンダー、自身の性自認に揺れ動くクエスティング…、心の性、表現する性は実に多種多様です。近年は学校などにおける多目的トイレの設備や男女共用制限の整備など、徐々に教育現場でも取り組まれてきています。自分が何者であるのかという戸惑いや揺らぎを経験する生徒たちの物語を見て、心の性や表現する性について考えます。
(約18分)

製造：(株)サン・エデュケーショナル

みんなで考えるLGBTs ③性的指向と性自認(解説編)



作品紹介

統計によると、人口の約8%前後がLGBTsであると推定されています。しかし、学齢期の早い段階での教育を待ち望まれていながら、教員自身の性格な知識や理解が追いついていないという現状があります。本巻では、性の多様性を解説し、LGBTsを取り巻く社会の動きなども紹介し、その理解を深めます。
(約22分)

製造：(株)サン・エデュケーショナル

ハンセン病問題を知る～元患者と家族の思い～



作品紹介

隔離政策によって偏見や差別に苦しみながら生きてきた、ハンセン病元患者やその家族のエピソードをアニメーション化し、国立ハンセン病資料館学芸員による解説とともに収録しています。ハンセン病についての正しい知識や歴史、そして近年の動向など、ハンセン病に関する理解を深めるとともに、偏見や差別のない社会の実現について考えるためのDVDです。
(約35分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：毎日映画社

見えないところで起きるトラブル ネットの危険性を考えよう



作品紹介

文部科学省選定
インターネット教育DVD(小学校 中・高学年向け)
(約17分)

制作・著作:株式会社 映学社

SNSに潜む危険 書き込む内容・載せる動画



作品紹介

文部科学省選定
インターネット教育DVD(中学生・高校生向け)
(約22分)

制作・著作:株式会社 映学社

SNSの危険から子どもを守る 親子でしっかり安全対策



作品紹介

文部科学省選定
インターネット教育DVD(保護者向け)
(約21分)

制作・著作:株式会社 映学社

職場のパワハラ対策シリーズ 1. パワハラ対策オフィス基礎編



作品紹介

労働施策総合推進法の改正によって法制化されたパワーハラスメント対策。この教材では、パワハラの実態の3つの要素と6類型を紐解きながら、典型事例と、判断に迷いがちなオフィスの事例を見ていきます。その言動のどこが、そしてなぜパワハラなのかを6つの事例で考えていく教材です。
(約32分)

制作・著作:(株)アスパクリエイト

許すな「えせ同和行為」～あなたの会社を不当な要求から守ろう～

作品紹介



「えせ同和行為」とは、同和問題を口実にして、企業・個人や官公署などに不当な利益や義務のないことを求める行為を指します。えせ同和行為は、同和問題に関する誤った認識を植え付け、偏見や差別を助長する要因となっており、同和問題の解決を阻害するものです。本DVDでは、えせ同和行為をはじめとする不当要求行為の主な事例をドラマ形式で具体的に紹介し、その心構えと対策を分かりやすく紹介しています。
(約36分)

企画：経済産業省中小企業庁・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

カンパニユラの夢(兵庫県人権啓発ビデオ)

作品紹介

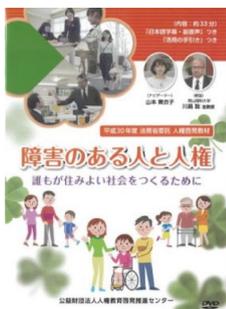


テーマ：超高齢化社会とひきこもり(8050問題)
(約36分)

企画：兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
企画協力：兵庫県教育委員会
制作：神広企画株式会社

障害のある人と人権 誰もが住みよい社会をつくるために

作品紹介



障害のある人もない人も誰もが住みよい社会をつくるためにはどうしたらよいのでしょうか？このDVDでは、障害のある人が直面する人権問題や心のバリアフリーの実現に向けた取組などを紹介し、「障害のある人と人権」について考えていきます。
(約32分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

気づいて一歩ふみだすための人権シリーズ⑤ お互いの本当が伝わる時－障害者－

作品紹介



雇用分野に関して改正障害者雇用促進法が、雇用以外の分野に関して障害者差別解消法がそれぞれ施行され、事業者・事業主に対して、障害者に対する「不当な差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の義務」が定められました。しかしながら、障害のある人に対する差別は解消されたとは言えず、また自分が意図せずとも相手を傷つけているケースも少なくありません。「障害のある人をどう手助けすればいいのかわからない」という声をよく耳にします。今作「お互いの本当が伝わる時」では、障害のある人が、どんな場面で困っているのか、どんな「バリア」があるのかなどの具体例を挙げ、それをどう取り除いていけばいいのか、また障害のある人から発信することの重要性も示しています。「障害のあるなしに関わらず皆で共生していくためにはどうすればいいか」を考える一助となれば幸いです。
(約24分)

制作協力：オープンアイズ合同会社
企画・制作：東映株式会社 教育映像部

企業活動に人権的視点を②～会社や地域の課題を解決するために～



作品紹介

経済活動のグローバル化や技術革新などにより、企業が社会に与える影響は、ますます大きくなっています。これに伴い、地球環境への関心が広がり、国際的な人権意識の高まりなど、企業が果たすべき社会的責任・CSRが問われる時代になってきました。企業は、顧客、取引先、株主、地域社会、従業員など、実に様々な人々と関わりながら活動をしています。多くの人から支えられている企業であるからこそ、これらの人々に誠実に対応していく必要があります。このビデオでは、どのように取り組むことが企業内外の人のためになり、地域や環境のためにもなるのか、先進的な5つの取組事例を紹介しています。(全編再生96分)

企画・制作：(公財)人権教育啓発推進センター
制作協力：株式会社桜映画社

涙に浮かぶ記憶～戦争を次世代へ伝えて～



作品紹介

【第34回全国中学生人権作文コンテスト法務大臣賞「戦争を次世代へ伝えて」映画化】(中学生以上一般向け)この作品は、「なぜ日本は戦争を止められなかったのか」その疑問を中学生3年の女の子が、戦争体験者の曾祖父から聞き出しながら戦争への拡大の足跡を資料映像で辿っていくものです。戦争は人を殺し、殺される。人間らしい気持ちを失う、女性や子どもたちも犠牲になる。どんな理由があろうと絶対に避けるべきです。そのために必要なことは、悲惨な戦場への想像力です。平和は与えられるものではなく、一人ひとりが作り上げていくものであることを訴えます。(約28分)

協力：法務省人権擁護局
制作・著作：株式会社 映学社

企業と人権 職場からつくる人権尊重社会



作品紹介

近年、長時間労働による過労死、セクハラやパワハラなどのハラスメント、さらには様々な差別に関わる問題などが社会の注目を集めています。こうした「人権問題」への対応は、時として企業の価値に大きく関わります。そのため、人権尊重の考え方を積極的に企業方針に取り入れれたり、職場内で人権に関する研修を行う企業も増えてきています。このDVDは、企業向けに実施する研修会等で活用しやすいように、ドラマや取材、解説も交えて構成しています。(約40分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

インターネットと人権 加害者にも被害者にもならないために



作品紹介

インターネットは、私たちの生活を豊かにするとともに欠かすことのできないものになっています。しかし一方で、インターネット上の人権やプライバシーの侵害につながる行為は後を絶たず、近年特にネットいじめや子どもたちをターゲットとした犯罪が大きな社会問題となっています。また、インターネットに関する知識や意識が十分でない中学生や高校生は、被害者になるだけでなく、意図せず加害者にもなることも少なくありません。本DVDは、主に中高生やその保護者、教職員を対象に、インターネットを利用する上での危険性や、安全な利用法・対策について、わかりやすくまとめました。(約30分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

わたしたちが伝えたい、大切なことーアニメで見る全国中学生人権作文コンテスト入賞作品ー



作品介绍

このDVDでは、「全国中学生人権作文コンテスト」入賞作品に基づいて制作されました。どの作品も、日常生活の中で「人権」について理解を深めていった気付きのプロセスを描いています。入賞作品を原作とした3つのアニメーションを通して、「人権ってなんだろう」と、自分自身の問題として考えてもらうことを目的としています。(約31分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：毎日映画社

風の匂い



作品介绍

この作品は、スーパーマーケットで働く青年、歩と正人が主人公です。歩には知的障害がありますが、子どもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になって二人を隔てる健常者と障害者という壁。その壁を作っているのは、誰なのか、歩との再会で正人は自分の心と向き合い、壁をなくそうと動き出します。歩もまた誇りを取り戻します。二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある『合理的配慮』についても触れ、見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマを制作しました。(約34分)

企画：兵庫県・(公財)兵庫県人権啓発協会
制作：東映株式会社

外国人と人権 違いを認め、共に生きる



作品介绍

このDVDは、外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にする人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるかを考えるものです。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているのかを学びます。(約33分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

道徳教材ドラマ 聲の形(こえのかたち)



作品介绍

道徳の授業の教科化に伴い、如何にして子ども達を「心の豊かな人間」に育てるか様々な議論がなされております。原作の「聲の形(こえのかたち)」(講談社)は、現代の子どものリアルな表情を描きつつ、「いじめ」や「障がい者との共生」などの難しいテーマを読者が自然に考える事のできる優れた物語です。本作は原作の物語を基本に、教材としてのテーマを付加したドラマ形式の学習教材です。「いじめ」や「障がい」に対する意識と知識を高め、学校や家庭内で話し合うきっかけとしてお役立てください。(約30分)

監修：一般財団法人全日本ろうあ連盟
企画・製作：東映株式会社教育映像部

今、地域社会と職場の人権は！

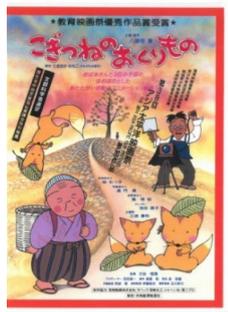


作品紹介

本作品は「増え続ける高齢者の問題」「子育てする女性の問題」「パワ・セク・ハラスメントの問題」「同和問題」に視点をあて、だれもが地域と職場で、自分の持っている能力や個性を発揮し、生きがいを持って働ける環境づくりの大切さを問いかけていきます。そして、皆が『いきいきと安全で安心できる社会』の取り組みと、共に支え合う「共生社会」の実現をめざす人権問題学習教材用ドラマ世界には、性別や人種、皮膚の色の異なる人々、大人や子ども、障害のある人など、一人ひとり違いを持ったたくさんの人たちが暮らしています。すべての人々の人種が尊重され、相互に共存し得る、平和で豊かな社会を実現するためには、私たち一人ひとりが人権に対する理解を深め、相手の違いを認めつつ、同じ一人の人間として相互に尊重し合うことが必要です。(約35分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
製作：株式会社 桜映画社

こぎつねのおくりもの



作品紹介

夢から生まれたおばあさんと3匹のこぎつねのあたたかいほのぼのとした楽しい童話の世界へ！お地蔵さんに化けたら「おだんご」がもらえることを覚えた三匹のこぎつねが、お供えしてくれるおばあさんの大切な写真を破ってしまう。人間とこぎつねの温かいふれあいを描いた、悪人のいない明るく楽しい感動のアニメーション。(約30分)

企画・製作：八頭司 享
制作：共和教育映画社

人権アーカイブ・シリーズ ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言～/家族で考えるハンセン病



作品紹介

この教材は、ハンセン病問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の人権教育・啓発に関わる職員等が身に付けておくべきハンセン病問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心に分かりやすく簡潔にまとめています。また、広く一般市民を対象とした啓発現場においても使用できる有効なツールとなる映像も併せて制作し、次世代へ伝承しようとするものです。(約78分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：東映株式会社

防ごう高齢者虐待 日常の介護から考える



作品紹介

高齢化の進む現代社会において、親や年老いた夫・妻の介護は、多くの人にとって避けて通れない問題となっています。日常の介護の中で思い通りにならず、弱い立場の高齢者を心ならずも虐待してしまうことは、誰にでも起こりうるかもしれません。本作品では、働きながら認知症の親の介護をしている2つの事例を、老老介護の話も含めドラマで描いていきます。どのような場面で虐待をしそうになるか示すことで、視聴者が虐待発生を未然に防ぐにはどうすればいいかを考え、理解できることを目的に制作しています。(28分)

企画・制作：東映株式会社 教育映像部

あなたがあなたらしく生きるために(性的マイノリティと人権)

作品紹介



性・セクシュアリティはとて多様です。しかし、それをしっかり理解している人はごくわずかでしょう。そのため、性的マイノリティの多くが、生きづらさを感じています。誰もがありのまま受け入れられ自分らしく生きたいと望んでいます。そんな社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。この教材は、性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めるのがねらいです。性的マイノリティの入門編としてご活用ください。(約30分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
製作：東映株式会社

人権アーカイブ・シリーズ 同和問題～過去からの証言、未来への提言～／未来に向けて

作品紹介



この教材は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等のさまざまな団体における人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を中心にわかりやすく簡潔にまとめています。また、一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる有効なツールとしての映像も併せて制作し、同和問題の解決のために次世代へ伝承するものです。(約80分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
製作：東映株式会社

デートDVって何？～対等な関係を築くために～

作品紹介



デートDVは、若者にとって非常に身近な問題です。この問題の根底には、男女の権利は平等であることや、お互いの人権を尊重することが大切である、といった人権に関する意識が希薄になっている状況があると考えられ、また、若者はデートDVの問題に直面した時、一人で抱え込む傾向が強いことも伺えます。本教材は、若者が交際相手との間で、暴力の被害者にも加害者にもならず、対等な関係を築けるよう、デートDV防止の啓発に役立てるための教材として制作しました。(約21分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
製作：(株)電通テック

虐待防止シリーズ

作品紹介



このビデオでは、「児童虐待」「高齢者虐待」「ドメスティック・バイオレンス(DV)」を取り上げ、子どもや高齢者、配偶者に対する虐待の事例をドラマで描くとともに、問題点や第三者としての関わり方について専門家のコメントを紹介합니다。ドラマを通して、虐待を他人事ではなく、身近な問題として捉え、虐待の防止・解決について考えていくことを目的としています。(計約46分)

企画：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター
制作：(株)桜映画社

あなたの職場は大丈夫？



作品紹介

パート(1)セクシュアル・ハラスメント

セクハラは個人間の問題ではなく、組織全体で取り組むべき人権問題であることをわかりやすく解説します。(約14分)

パート(2)パワー・ハラスメント

パワハラは労働問題であるとともに、人権問題であることをわかりやすく解説します。(約13分)

パート(3)えせ同種行為

えせ同種行為への対処法を、具体的な例を挙げながらわかりやすく解説します。(約18分)

企画・製作：法務省人権擁護局・(公財)人権教育啓発推進センター

制作協力：(株)毎日映画社

見上げた青い空



作品紹介

この作品は、巧妙かつ残酷ないじめの現実、そして、いじめられる側もいじめられる側も苦しんでいる“いじめ”の本質を直視していただき、あらためて“いじめ”について考えていただくきっかけになることを企図して作成されました。ご覧になった方の一人一人に、人ごとではなく自らの問題としての「気付き」があることを願っております。(約34分)

企画：法務省人権擁護局・(財)人権教育啓発推進センター

製作：(株)電通テック・(株)情報設計

社会福祉施設等における人権 私たちの声が聴こえますか



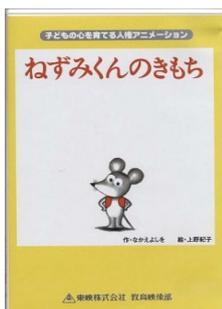
作品紹介

近年、高齢化が急速に進行する中で、社会福祉施設等の入所者に対する身体的・心理的虐待等が表面化し、大きな社会問題となっています。施設内における虐待を根絶していくためには、施設職員の人権意識を高めていくことが一層必要になっています。本作品は、女優の渡辺美佐子による「ひとり芝居」(施設職員編・入所者編)を中心に、施設職員の人権意識を高める取組として実際に施設内で行われた人権啓発活動の紹介等「どんな行為が入所者の人権を侵害する行為に当たるのか」ということが自然に理解されるような構成になっており、施設の運営に人権の視点が不可欠であることを強調しています。(約30分)

企画：法務省人権擁護局・(財)人権教育啓発推進センター

製作：(株)電通テック・(株)情報設計

ねずみくんのきもち



作品紹介

ロングセラーのねずみくんの絵本シリーズの中の『ねずみくんのきもち』を映像化しました。いじめやコンプレックス、自然とのつながりなどの大切なテーマをねずみくんと一緒に学べる楽しいアニメーションです。一人一人が大切な存在であるということに気づき、共に生きていることを感じられることを願って制作しました。(約12分)

企画・製作：東映株式会社 教育映像部

小学生のための人権パート1 思いこみに気づく



作品紹介

実際の人権の課題を通して、「思いこみ」について考えさせる内容です。
テーマ1「思いこみってなんだろう？」
テーマ2「ちがいを受け入れる」
(約14分)

企画・製作: 東映株式会社 教育映像部

小学生のための人権パート2 大切なわたし大切なあなた



作品紹介

事例や、いろいろな人へのインタビューを通して、大切なわたし、大切なあなたというテーマを子どもたちに考えさせる内容です。
テーマ1「きずつくこと きずつけること」
テーマ2「大切な自分 大切なみんな」
(約15分)

企画・製作: 東映株式会社 教育映像部

インターネットの向こう側



作品紹介

半年前、いじめ問題を克服したはずの青野北高校の2年A組だったが、ここにきて「学校裏サイト」を利用した「ネットいじめ」の問題が起きていた。同時に、「なりすまし」の「プロフ」を作られ被害を受ける生徒も。担任教師の高木雄介は、インターネットを利用した誹謗中傷や個人情報の漏えいは『人権侵害』である、ということを理解してもらおうと、携帯電話やインターネットが抱える問題点について保護者や生徒たちと話し合う…。(約30分)

企画・製作: 法務省人権擁護局・(財)人権教育啓発推進センター

勇気あるホタルととべないホタル



作品紹介

(文部科学省選定)羽がちぢんで生まれた為に、とべないホタルがいました。彼を励まし、助ける仲間ホタルたち、足の不自由な妹の為にホタル取りにやってきた姉と弟。ホタルと子どもたちのふれあいを通して、やさしさと、思いやりの大切さを描きました。
(約17分)

企画: (原作)小沢昭巳
制作: 共和教育映画社

見てわかるパワー・ハラスメント対策 1. 気づこう！パワーハラスメント



作品紹介

パワーハラが起きる状況を、パワーハラの原因タイプ別に分類した事例で展開します。管理監督者から非正規従業員までの全ての働く人を対象に、パワーハラ防止の基本をわかりやすく解説します。
(約22分)

企画・制作: (株)アスパクリエイト

見てわかるパワー・ハラスメント対策 2. 管理職がパワーハラ加害者にならないために



作品紹介

業務を進める上で、管理職から部下への指導は不可欠です。そこでどんな言動がパワーハラとなり、どうすればパワーハラにならない指導ができるのか、管理職のタイプ別事例を通して解き明かします。
(約25分)

企画・制作: (株)アスパクリエイト

「同和問題と人権—あなたはどう考えますか—」



作品紹介

同和問題とは一体どのような問題なのか、どうしてこのような問題が存在し、何故なくなるしないのか。同和問題を正しく理解し、同和問題を解決するためにはどうすればよいのか、このビデオを見ながら、一緒に考えてみませんか。
(約28分)

企画・制作: 法務省人権擁護局

ハンセン病 今を生きる



作品紹介

ハンセン病は「らい病」と診断された患者が、強制的に隔離されたことから『強い感染力をもった恐ろしい病気』『恐ろしい伝染病』という間違った考えが広まり、偏見と差別を大きくしたといわれています。現在では早期発見と適切な治療で、障害を残すことなく治る病気です。私たちはハンセン病について正しく理解し、差別や偏見をなくしていかなければならないのです。
(約49分)

企画・制作: 共和教育映画社

老いを生きる－今日も何処かで高齢者のサインが！

作品介绍

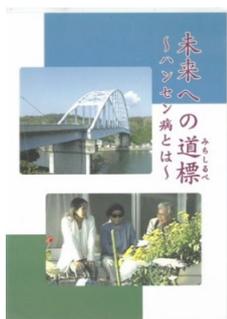


誰もが通らなければならない老いの問題を自分のこととして捉え、日常生活の中で高齢者に対するやさしさや思いやりの心が、態度や行動に表れるような人権感覚を身につける作品です。
(約35分)

企画: 和歌山県・(財)和歌山県人権啓発センター
制作: 共和教育映画社

未来への道標(みちしるべ)～ハンセン病とは～

作品介绍



人権侵害の歴史、なくならない偏見・差別。その根底にあるものは何なのか、元民放テレビ記者の藪本雅子さんが、各地にある療養所や社会に出て暮らすハンセン病回復者らを訪ね、その真相に迫るとともに、今後の「人権の在り方」について問いかけます。
(約30分)

企画: 法務省人権擁護局
制作: (株)日本テレビビデオ

未来への虹－ぼくのおじさんは、ハンセン病－

作品介绍



ハンセン病元患者の平沢保治さんをモデルにして書かれた子ども向けの本「ぼくのおじさんは、ハンセン病－平沢保治物語－」をもとに、小学校高学年以上の方に見てもらうことを目的として作られたものです。平沢さんは、この作品の中で、これからの未来を担う子どもたちに、差別の痛みや苦しみ、帰りたくても帰れないふるさとへの想い、そして「人権」の大切さを語りかけています。
(約30分)

企画: 法務省人権擁護局
制作: 共同映画(株)・(株)マジックバス